

大漁 ふらいき

平成16年3月

第10号

■発行
(社)岩手県栽培漁業協会

社団法人 岩手県栽培漁業協会だより



マツカワ種苗（全長30mm・ふ化後60日）

2月上旬に卵からふ化したマツカワは、夏本番の7月中旬から8月に全長10cmまで成長し、岩手県沿岸の各地先へ放流されます。

「ふらいき」 第10号 目次

- ・『創立10周年を迎えて』 専務理事 小笠原 嘉 光 2
- ・種苗生産実績報告 アワビ、ウニ、イワガキ、ヒラメ、マツカワ、アユ ... 3
- ・業務紹介 マツカワ種苗生産工程の概要 5
- ・海上あんでな 大船渡・種市の水温 7
- ・酒のさかな チカ（ワカサギ） 8
- ・職員紹介 8

本 所 〒022-0001 大船渡市末崎町字鶴巻120
種市事業所 〒028-7914 九戸郡種市町20-177

TEL 0192-29-2135

FAX 0192-29-3099

TEL 0194-65-4750

FAX 0194-65-4706

創立10周年を迎えて

専務理事 小笠原 嘉 光

(社)岩手県栽培漁業協会は、本県栽培漁業の推進母体として平成6年3月に創立され、ここに10周年を迎える運びとなりました。

当協会は、県、沿岸市町村、漁業団体等の出資により昭和54年に開所した県南部栽培漁業センター(大船渡市)と昭和62年に開所した県北部栽培漁業センター(種市町)の施設及びアワビ、ウニ、アユ等の種苗生産業務を引き継ぎ今日に至っております。

この間の年間供給数量はアワビが300万個前後で推移しているものの、平均殻長は発足時23mmであったものが31mmに大型化しており、ウニは平成8年度の708万個をピークに減少し現在は400万個を割っており、アユは1,400kg～2,500kgの範囲となっております。更に、平成13年度からは大槌町に新設された魚類栽培中間育成施設が稼働し、ヒラメ110万尾、マツカワ10万尾の種苗生産が本格化し、平成14年度からはイワガキ種苗生産約3万枚が新たに加わっております。

10年の歩みを振り返りますと、当協会の事業及び経営内容は一応順調に推移して参りましたが、本県漁業は依然として深刻な後継者不足、輸入水産物との価格競争など厳しい環境に直面しております。そうした中、高齢者でも従事可能な栽培漁業の重要性は増しており、その比重は今後ますます高まるものと確信しております。

竹が重い雪に耐え、折れないのは節があるからでしょう。当協会も水産業を取り巻く厳しい環境・不況の重みに耐え折れることがないように、10周年を節目として更に経営基盤を強化し、栽培漁業の推進により一層の努力をして参りたいと考えております。

創立10周年に当たり、当協会が歩んできた歴史を振り返り、先達者の業績を尋ね、今後の進むべき道を探り、更なる発展と本県水産業の振興に寄与することを目的に、記念誌の発行と記念式典の開催を本年3月下旬に予定しており、その際にも申し上げたいと思っておりますが、これまでご支援ご協力を頂きました県当局、そして沿岸市町村、漁業関係者の皆様方に対し、心から感謝申し上げお礼の言葉といたします。

種苗生産実績報告

アワビ



平成15年度アワビ種苗生産は、夏の成長期に海水温が低く推移し、稚貝の成長は順調ではなかった。そのため出荷時期が若干遅れると共に、供給サイズも昨年度の31.5mmより1.4mm小さくなりました。

平成15年度地区別アワビ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻長(mm)	賦課金額(千円)
久慈	5	1,270,000	31.4	79,460
宮古	7	1,359,000	29.7	80,578
釜石	3	349,562	25.9	18,034
大船渡	3	65,000	34.2	4,439
県外	1	40,000	35.0	3,381
合計	19	3,083,562	30.1	185,892

※平均殻長は小数点第2位を四捨五入

ウニ



ウニ種苗は、供給希望数量の減少により、キタムラサキウニとエゾバフンウニを合わせて昨年より48.5万個減の351万個の供給となりました。(対前年比87.8%)。種苗生産は順調だったため、次年度出荷用の種苗が確保できました。

平成15年度地区別キタムラサキウニ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻径(mm)	賦課金(千円)
久慈	7	2,340,000	17.8	48,047
宮古	2	23,000	21.4	570
釜石	4	409,950	17.9	8,452
大船渡	3	105,000	18.1	2,197
その他	1	100,000	15.0	1,733
合計	17	2,977,950	17.7	60,999

※平均殻径は小数点第2位を四捨五入

平成15年度地区別エゾバフンウニ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻径(mm)	賦課金(千円)
久慈	5	120,000	20.1	2,780
宮古	—	—	—	—
釜石	4	209,650	18.6	4,511
大船渡	—	—	—	—
県外	2	200,000	20.1	5,065
合計	11	529,650	19.5	12,356

※平均殻径は小数点第2位を四捨五入

イワガキ



本年度から早期採卵を行い、6月と7月の2回採卵を実施しました。供給希望数量の34,920枚（対前年比126%）を供給することが出来ました。

平成15年度地区別イワガキ種苗供給実績

地区名	会員数	連数	枚数	賦課金(円)
宮古	4	502	15,060	1,584
釜石	3	42	1,260	132
大船渡	7	610	18,300	2,044
その他	1	10	300	38
合計	15	1,164	34,920	3,798

ヒラメ



平成13年度から大量放流（魚類栽培事業）が始まったヒラメ種苗生産は、大船渡事業場で種苗生産（ふ化～30mmまで）を行い、大槌施設へ輸送し中間育成を行いました。飼育、輸送並びに放流作業は問題なく行われ、放流目標の1,100千尾を上回ることが出来ました。

平成15年度ヒラメ種苗生産実績

区分	収容数(千尾)	取り上げ数(千尾)	平均全長(mm)	生残率(%)
種苗生産	4,000	2,235	32.1	55.9
中間育成	1,472	1,236	84.4	84.0

マツカワ



水産技術センターから受精卵の供給を受け種苗生産を開始し、生産目標100mmサイズ、10万尾に対し、98.2mm、13万尾の種苗生産結果となりました。

種苗放流は一部に標識を付し、吉浜湾、船越湾、大槌湾並びに久慈湾に放流されました。

平成15年度マツカワ種苗生産実績

区分	収容数(千尾)	取り上げ数(千尾)	平均全長(mm)	生残率(%)
種苗生産	800.0	153.8	35.9	19.2
中間育成	153.8	131.6	98.2	85.8

アユ



本年度のアユ種卵は、海産系の県内養成親魚及び県内河川採捕親魚から採卵したほか、県外の種卵も導入し種苗生産を開始しました。飼育は順調に推移し、県内外合わせて3,009kg出荷しました。

平成15年度アユ種苗生産実績

区分	収容数(千尾)	取上げ数(千尾)	平均体重(g)	生残率(%)
種苗生産	8,534	5,129	0.59	60.1
出荷重量	県内(kg)	県外(kg)	合計(kg)	
	2,044	965	3,009	

業務紹介

マツカワ種苗生産工程の概要

親魚養成



←① マツカワ親魚飼育水槽

人工生産したマツカワを産卵用親魚として養成し、餌には配合飼料にビタミン剤等を添加して良質卵の確保に努めています。

採卵・受精

② 親魚飼育状況→



←③ 採卵

マツカワは自然産卵での種卵確保が困難であるため、人工的に搾出します。

④ 採精→

採卵と同様に、人工的に搾出して、人工受精を行います。



←⑤ 卵分離

受精した卵を止水の中で浮上卵（受精卵）と沈下卵（未受精卵）とに分離します。

ふ化

⑥ 発眼卵（卵径1.8mm）→

ふ化までは約10日間かかります。



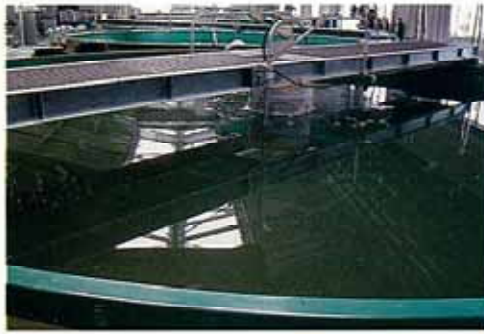
次項へつづく



←⑦ ふ化仔魚（全長6mm）

生まれたばかりの仔魚は、口も肛門もできておらず、泳ぎもあまりうまくありません。

仔稚魚飼育



⑨ 仔魚8mm (ふ化後15日) →
口も肛門も出来ました。この頃までは、普通の魚のように体の両側に眼があります。



⑩ 仔稚魚となるワムシ (上) とアルテミア (下) です。



中間育成



⑫ 稚魚 (全長30mm・ふ化後60日)
放流後の初期減耗を抑えるため全長100mmまで中間育成します。(上) ↑
飼育状況 (右) →

←⑧ 生産用水槽 (円形50t)

ふ化仔魚を50t水槽に収容して生産を開始します。



⑪ 選別作業

全長30mmで全数を取り上げ、選別を行い大小に分けます。(上下) ↑ ↓



種苗放流

←⑬ 種苗放流 全長100mmに育成された種苗を県内各地へ放流します。



漁獲・市場調査

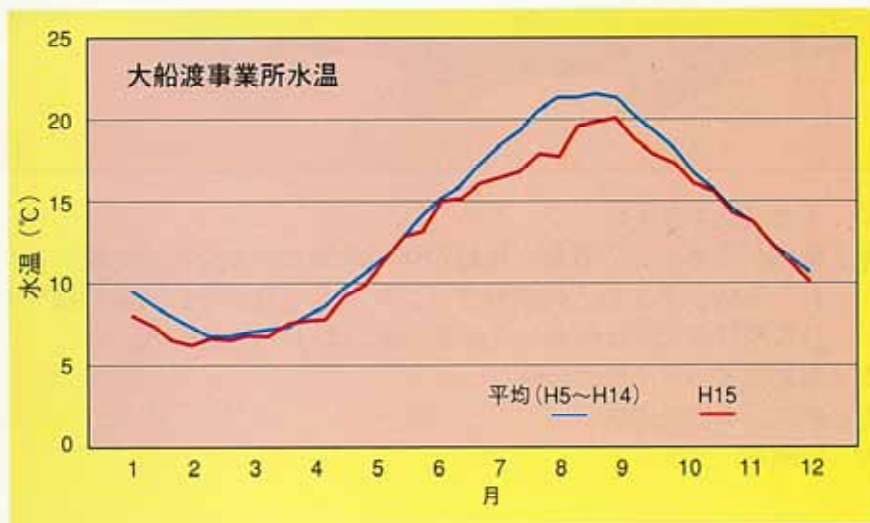
⑭ 市場調査 →
市場で放流効果等の調査を行います。

海上あてな

春～夏は低水温、秋～冬は平年並

大船渡事業所水温

平成15年の水温の経過は、平年水温（H5～H14）と比較して、1月は約1.5℃低く、2月から6月はほぼ平年並みに推移し、7月～10月は冷夏の影響で1℃～3.5℃低く、11月以降は平年並みに推移しました。



種市事業所水温

平成15年の水温経過は、平年水温（S62～H14）と比較して、10月までは1～2℃低く推移し、特に夏場の7月は2.4℃、8月は2.8℃低かった。11月になり0.4℃高くなり、12月は1.1℃高くなりました。





酒のさかな

三陸の肴について紹介します。チョット一杯のつもりが！



呼 び 名：チカ（ワカサギ）

特 徴：脂鱭があること、背鱭と腹鱭が体の中部にあることが特徴。ごく岸近くで群れて生活しアミなどの動物プランクトンを食べる。三陸ではワカサギと呼ばれるがワカサギは汽水～淡水性で海にはいない近縁の魚。

分 布：東北地方から千島の沿岸

獲 り 方：釣り、小型定置網

食 べ 方：塩焼き、フライ

職員紹介

川 畑 浩 平（かわはた こうへい）

平成15年4月から勤務しております。高校卒業以30数年金融機関で勤務してましたので水産業という全くの異業種で不安もありますが、協会職員の一員として会員の皆さんから喜ばれる種苗の安定供給のために微力ながら頑張っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

【プロフィール】

- ・昭和23年4月 大船渡に生まれる。
- ・昭和42年4月 岩手信用組合入組。以後、高田支店、本店営業部、本部、細浦支店に勤務。
- ・この間、高田支店長、細浦支店長、総務部長を務め平成14年7月岩手信用組合事業譲渡により退職。



編集後記

本年は3月の低気圧災害、5月26日の三陸南地震、9月26日の十勝沖と災害続きで、水産関係にも甚大な被害を被りました。当協会も例外ではなく、地震被害による改修工事、春～夏の低水温による水温管理等と自然災害による被害を受けました。

このような厳しい現状の中で、当協会におきましても明るい未来を築くため「優良な種苗づくり」に今後とも精進いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。